

くまざ



今は唯物論的幸せより

精神的幸せを求めて

湖陵同窓会長 久本 甫

五十五年前の第二次世界大戦は戦地で経験したり、国内で空爆を受けたりして多勢の人々がその様子を知っています。ところが第一次大戦となると、歴史の本で知っている程度で実際に経験した人は殆ど生存しなくなりました。作曲家のプッチーニ、画家のドガやモネが生存し、十五代将軍慶喜だつてその前年まで生きていたんでそれから随分と昔のことになります。

記念となるような九十周年になるよう祈っております。そのためには担当者だけでなく、皆で協力しようではありませんか。

扱って、湖陵の前身である釧中は 大正二年つまり第一次大戦が勃発する前の年に創立されました。八十九年も前の事です。第一回の入学生は丁度百才位と云う事になります。それから大変長い歴史をもつ事になります。野球に強い伝統校とか百年の歴史を持つ名門校とか云う言葉がありますが、まあ湖陵も名門校と云うことになるのでしょうか。面はゆい感じがしますが。

私共湖陵七期の話で恐縮ですがこの三十五年、毎年釧路・札幌・東京の三ヶ所で同期会を開いております。他に卒後三十年、四十年そして還暦の年には二泊三日で温泉等で開催しております。毎年行なう同期会は三ヶ所で百五十人位、記念旅行には五十人から百五十人が参加してまいりましたが、年々参加人数は減少しております。『年をとると幹事を引き受けるのが億劫でネ』と云う本音をきかされま

す。それにしても毎年のように同期に会えると云う事はいいことですね。年をとればとるほど。

昨年十月一日付で名門釧路湖陵高等学校第二十八代校長として赴任するよう道教委から内示を受けた時、責任の重さに身の引き締まる思いをしたのが、つい昨日のように思われます。着任してまだ九ヶ月しかたつておりませんが、至る所に歴史と伝統の重みを感じます。驚きと感銘を受けたことの一つに、学校行事等で生徒が声高らかに校歌を歌っていること、その校歌が釧中時代の校歌と同じであるという事です。昭和二十五年に、通学区制による男女共学が実施された時、ほとんどの学校が新たに校歌を制定しました。旧制中学校の校歌が今なお歌われている学校は、全道広しと言えども本校だけであると思います。今の生徒が歌っても何の違和感もありません。雄大な郷土の景観といつの時代になっても変わらない若人の夢と情熱を謳い上げた作詞者菅原覚也氏(釧中時代の本校教諭)の慧眼に心か

ところ湖陵は来年九十周年を迎え、今その記念事業の準備に余念がありません。いずれ百周年と云う大事業もありますし、この不景気ですから大形には出来ないのでしょうが、卒業生皆が心に残る

昨年が『キレル十七才』がはやりましたが、今年が『おじい』が流行しています。若くとも老人でも満足できる人生をおくることが出来れば幸せですね。芸術はクリエイトですと云った人が居ましたが、人生もクリエイトですね。



素晴らしい校歌

校長 保坂 潤一

昨年十月一日付で名門釧路湖陵高等学校第二十八代校長として赴任するよう道教委から内示を受けた時、責任の重さに身の引き締まる思いをしたのが、つい昨日のように思われます。着任してまだ九ヶ月しかたつておりませんが、至る所に歴史と伝統の重みを感じます。驚きと感銘を受けたことの一つに、学校行事等で生徒が声高らかに校歌を歌っていること、その校歌が釧中時代の校歌と同じであるという事です。昭和二十五年に、通学区制による男女共学が実施された時、ほとんどの学校が新たに校歌を制定しました。旧制中学校の校歌が今なお歌われている学校は、全道広しと言えども本校だけであると思います。今の生徒が歌っても何の違和感もありません。雄大な郷土の景観といつの時代になっても変わらない若人の夢と情熱を謳い上げた作詞者菅原覚也氏(釧中時代の本校教諭)の慧眼に心か

ら敬意を表します。
全日制定時制併せて二万七千名を越える同窓生が、地元はもとより、全道・全国で各界において活躍されておられることは、本校の最高の誇りとするところです。
「誠愛勇」の校訓の下、在校生も文武両道を合い言葉に頑張っており、これからも二十一世紀を担う有為な人材を送り出すよう、一層努力してまいります。
本校は、来年創立九十周年を迎えます。九月に協賛会を立ち上げる予定です。やがて来る百周年への一里塚として、九十周年事業は、記念式典、講演会、記念誌発行とできるだけ小規模に行う予定です。同窓会員の皆様には、いろいろとご協力いただくことになりましたが、よろしくお願い申し上げます。
終りに、本校の一層の発展のために、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、同窓会員の皆様のご健勝を心からご祈念申し上げます。



同期会便り



釧路30・31期同期会の巻

(釧路在住)

会長 松島 良治

釧路30・31期全国同期会を毎年欠かさず東京・札幌・釧路、三プロックで持ち回りで実施しているが、平成十二年度は釧路地区が当番で十月三日釧路ヒルトンホテルを貸切って開催した。今までにない多くの参加者九十四名(そのうち夫人同伴二十組)が出席し大いに旧交を温めあった。

今まで温泉地巡りの同期会が続いたので今回は地元釧路で開催し、久しぶりに故郷へ帰ってきた者のためバスで市内観光をし、次の箇所を三時間かけて同期の上岡幹事が案内役をつとめた。

釧路駅前発—湿原展望台—釧路西港展望—副港—米町公園下車—旧湖陵高校跡地を通り—博物館内見学—湖陵高校通過—ホテル着

私共が社会に出てからは新生活日本復興のために努力し、特に昭和四十年代にかけた高度成長期には汗まみれの働き蜂になって世に貢献した世代と自負している。いまや全員が古稀とゆう大きな節目を

同期諸君の印象は釧路の発展振りに驚愕し異口同音に感慨無量のようであった。
私共は戦後二十一年(30期)二十二年(31期)卒業で在学中は第二次世界大戦の真最中で殆ど学徒動員にかり出され、帯広の飛行場建設、十勝釧路管内の援農、北見津別の松下ベニヤ工場で軍用機向けのベニヤ板製造等、それぞれ集団作業をし寝食共にした仲間だけに絆は強くその結束力は他の期に勝るとも劣らないと自負している。

過ぎており、一方、友の鬼籍入りも多く皆で同期物故者八十六名の冥福を祈り黙祷の後、宴会に入る。同期の中には五十二年振りの懐かしい顔合わせもあって、二次会、三次会と夜更けまで楽しさ懐かしさで経年の想い出尽きぬ酒盃交換のひとつときを過ごした。
古稀を過ぎた者ながら酒の量もかなりなもので、その元氣振りはまだまだ意氣盛んなところを見せています。

この会も回を重ねる毎に夫人同伴が多く、夫人同志が誘い合って出席しているようでむしろ夫人方の同期会みたいになり、和氣藹々の雰囲気でもとすばらしい集いだと思っております。
結びに同窓生皆様のご健康と益々のご活躍、ご発展をご祈念申し上げます。

釧路中学校30・31期全国同期会の歩み

当番	とき	ところ	人数	備考
1987年 釧路	昭 62 9.12	定光寺(追悼法要) 釧路末広館	55	同期物故者38人 卒業40周年記念 卒業アルバム発刊
			65	
1988年 釧路	昭 63 10.22	釧路東急イン	35	
1989年 東京	平 元 11.4	熱海竜泉閣	57	熱海
1990年 札幌	平 2 9.30	登別プリンスホテル	47	登別
1991年 釧路	平 3 11.2	阿寒湖畔ホテル市川	44	阿寒湖
1992年 東京	平 4 9.25 9.26	松島 ホテル一の坊 秋保温泉	52	松島・仙台 (2泊)
			52	
1993年 札幌	平 5 10.15	定山溪ビューホテル	69	定山溪
1994年 釧路	平 6 9.30	川湯観光ホテル	60	川湯
1995年 東京	平 7 10.16 10.17	箱根小湧園 熱海、ホテル水葉亭	62	箱根・熱海 (2泊)
			62	
1996年 札幌	平 8 10.14	支笏湖丸駒温泉	64	支笏湖
1997年 釧路	平 9 9.28 9.29	定光寺(追悼法要) 阿寒湖畔ホテルエメラルド 知床第一ホテル	96	同期会物故者74人 卒業50周年記念 記念文集発刊(2泊)
			89	
1998年 東京	平 10 10.13 10.14	鬼怒川温泉 ホテルニュー岡部	57	日光・鬼怒川 (2泊)
			57	
1999年 札幌	平 11 10.13	小樽朝里川温泉宏泉園	61	小樽朝里川
2000年 釧路	平 12 10.3	釧路ヒルトンホテル	94	釧路



釧路市湿原展望台

当番期紹介

湖陵二十九期 福岡 禎仁

ビデオ上映誕生秘話

手伝ってくれる同期生もさほどいなかった中で、旧校舎

解体の御影石を袋詰めして同窓会で販売するのだと先輩に言われ、年次有給休暇をとって一日中袋詰めしたのが、いまからちょうど十年前。

そのころ、一体十年後は手伝ってくれる同期がいるのだろうか、と不安になったが、昨年のゴルフ大会のセッティングに端を発し、いざふたをあけてみると、みんな同窓会総会を認識していたらしく、十人程度集まった。

その後、集まりは二十数回に及び、喧喧諤諤と議論をたかかわせ、本日の同窓会総会

を迎えることとなった。

その中で、今回の出し物「ビデオ上映」を二十一世紀はじめての同窓会で行うのが半ば当然といった具合に決定した次第。

「できるだけ費用を安く」をモットーに、ビデオ会社と交渉し、ナレーターも自ら買って出た花の独身K女史。(寄付集めなど顔の広さにはびっくりしました。一番の功労者です)

かなり過激な口調で全体をまとめた(というか従ったというか)会計担当のH氏。

事務所を再三にわたり会場の中、空中撮影の手配などいろいろやってくれ、将来もつとえらくなること確実な、現道議E氏。

文書の作成、合唱部、チアリーダーの手配など、現教諭ではあるもののビデオ上ではちよつと出演しながら、生徒中心に出演をしたO氏。

今年のゴルフも含め、八十年記念誌の中からトピック的なものを抜粋し、編集、クイズなどに汗を流したK氏(二人)、F氏、S氏(二人)、U氏。

また、当日手伝いにかけてくれた同期生の皆さん。ご苦労様でした。

いざ行かん。
湖陵二十九期生諸君!



同窓会
総会風景



釧路のおみやげに!

しあわせをお菓子にのせて



熊手焼
せんべい

熊まき



釧路市南大通2 ☎代41-2121

奥田達也(湖陵一期)の
誠愛勇から

組村眞平の巻
(湖陵一期)



「鏡が無いか？」と組村がいった。ここは羅臼の海辺である。満潮時には海に没する露天風呂もある。が、この時はそばの天井張りの温泉に入れていただいた。「おれは鏡が無いと髭が剃れないんだ」と。

この組村の言葉を、毎朝、風呂場で髭剃りをするたびに思い出す。いい加減に手でなでながらでも剃れる私と、何事もしつかり確かめて事を成す組村眞平。長らく身近かにつきあつてきて、そう思う。また頑張屋とはすべての人が認めていた。東大に二度合格した、と元同窓会長中村隆が感嘆し己れの後継者にと何度もこん請した。これまでで一番若い。それだけ

に組村は拒み続けた。同窓会館の建設も創立七十周年も三年後にひかえ急がれていた。重い荷をついに拒みきれず引き受けたのは彼の正義感であつたか。

就職難でもみごと就職していながら、あえて退職し、難関中の難関、司法試験に挑戦して弁護士となつたのも、彼の正義感であつた。猛勉強も彼の頑張屋として当然である。彼の徹夜につきあつて悲鳴をあげた大学入試を思い出す。なまくらでない。することが徹底している。

豪快な泳ぎと体操

キャンプ好きの弁護士

同窓会長に推ばんされて半歳後『くまざさ』を創刊した。それに

「同窓会館の建設・同窓会報の発行・若手会員にも魅力ある会への脱皮・会員予備軍(在校生)との接触強化……この会報創刊号の発行が、その実行の第一弾である」と創刊の辞をのべている。それが二十年受け継がれ四十号となる。

この同窓会館が建設され、募金額が半分しか集っていないと知つた彼、札幌からきて同期生に云う。「みんなが一万円ずつ出した。も

う一度一万円ずつ出してくれ。私も又五十万円出す。出せる者ももう一度出せば達成する。当初の奉加帳では十萬、二十萬とうちの期だけでも千萬元以上が予定されていた、青木馨さん始め多胡省三、高橋一郎、米原登美雄、佐藤軍平、斉藤実、川合陸男、高間英二、楢金圭と大口寄付が死んだが、やる気があればできる」

そう熱弁をふるつた。出す気のない者を掘り起こすより再度追加すれば達成する。実行可能の策であつたが、税減免措置期間は実行をみないうちに過ぎた。最後の処理を私から聞いた組村は黙した。やると決めたならやる男。毎朝の柔軟体操はキャンプへ行つても一時間実行する。そのハードさに真似してやってみた仲間もついていけない。

「キャンプは原始的でなければならぬ」と出来る限り文明の利器を避けるようリードした。焚き木を拾い集め、石の炉で炊事をする。灯火もランプ程度である。昔ながらのテントを張り、草刈

りや地ならしをした上にマットと寝袋のキャンプは、戦時中の援農や造材に馴れた同期生には懐しく仲間意識を固め、今尚毎月一回の会合が各支部でも続く素地である。

例年、南国への同期会旅行で海やプールでのサーフィンや水泳も猛烈である。ボードで波を乗りきるまで何度も落ちながらやり通す。「泳ぐためにきたんだ」と私らが島内観光に出ても朝から晩まで海にプールに豪快に飛び込んでいた。冷たさで誰もいない室内プールを何度も往復する彼を私はふるえながら眺めるばかりであつた。

裁判劇をレパートリーに脚本書きもユーモアと正義感に満ちたものだった。経験と博識による事柄をわかり易く知らしめたい、という思いも彼の愛情であつたらう。同窓会の役員会で冗談的に、「成績が悪かつたのに」と謙遜して云つたが米内富久司、坂下忠勝らにつづいて優等生の伊藤正司、組村眞平、長内宏らが市教育委員長に就いたのは、男優位の時代に釧中卒業生がなるのはやむを得なかつた。

釧路市に生まれ、釧路市の教育界、法曹界に尽力した組村が刑事事件を専一に道央の札幌市にあつて、全道を範ちゅうにして活躍しているのを心強く見守る昨今である。

霧の街釧路で100年ひと筋に育てたそばの味

東家

老園
東家総本店

釧路市柏木町3の19 ☎41-6291
営業時間/午前11時~午後6時
定休日/毎週火曜日

社会人になって

内田 俊 祐

平成十三年三月卒

(湖陵五十三期)

私は社会人になって約三ヶ月に

なります。社会人になってから私の生活は、大きく変化しました。

私は市の職員として四月から勤務していますが、仕事はまだ完璧に覚えていないというのが現状です。仕事の事がよくわからず、常に先輩方に教えてもらっています。私が所属している所は国保医療課

の徴収や納付相談等を行っています。市民と接する機会が多い為、私の言葉が市役所の意見となるので、慎重に話さなければなりません。しかし、その責任の重大さが社会人になったという実感になるのです。

今まで高校生だった頃はあいさつをしなかったり、欠席や遅刻、早退などをしていた私ですが、社会人になってからは一切なくなりました。

まずあいさつですが、社会人の基本です。これができなければ、周囲の人との人間関係が上手くいきません。それと欠勤、遅刻や早退ですが、仕事がたくさんあるのでそのような事をすると、次の日が大変になるので最近では考えら

れません。

四月、五月頃は、大学に行けば良かったかなと思っていました。大学に行けばきっと高校時代の生活と全く同じになると思っています。だから、社会人になり責任のある仕事の方が緊張感があって良かったと思います。

職場の先輩は、とてもいい人ばかりで丁寧な仕事を教えてくれます。市役所は、真面目な人ばかりというイメージがありました。全員面白い人ばかりで楽しく仕事をしています。早く仕事に慣れ、一人前の社会人になれるよう頑張っていきたいと思っています。

社会人1年生



釧中32期卒業50周年旅行 男達だけの校歌・応援歌を歌う H10.10.1



応援歌を腕組んで歌う同期生ら H10.10.1 夜

応援歌は同窓生のみか!?

いまは昔のノスタルジー

もう湖陵高校在校生が五十四期生となった。

「釧中・湖陵同窓会」とはいうものの、幹事会に集まるのは湖陵高校の卒業生だけになってしまった。来年「開校九十年」を迎えるのだから、敗戦後の学制改革で六三三制となり旧制中学がなくなって五十二年、当然のことではある。

釧中卒業生が同期会を延々と続けて「若き日の、青春の血潮に燃える」意義は十分にある。

あの多感な年頃を共にした友は同期生たちなのだから。その変遷多い時代を共に生き学んだ友こそ長い人生でも、かけがえのない親友であり、心許せる永遠の友なのだ。ただ時の流れを知らなければならぬ。

もう二十年も昔になるが、同窓会の幹事会で二次会に流れ、広いホールに他のグループもいたとき、「応援歌を唄おう」と幹事長がいった。

即座に釧中八期生の丹葉節郎さんが、論ずようにいった。「他人のいるところで、校歌や応

援歌を斉唱しないことだ」と。

あの恐いもの知らずの、一見傍若無人（ぼうじやくぶじん）とも思われる人の、思いやりのある言葉に後輩一同は、しゅんとすると共に「名門湖陵高生たるもの心がけ」を教えられたのであった。

ライバル学校の工業高卒業生が「阿寒の山、を唄おう」といったとき、唱和こそすれ、あまり得意にはなれなかった。有難い気持ながら甘え過ぎてはいけない、との心である。

いまの在校生が、それほど校歌応援歌に愛着がないとしたら淋しいことではある。しかし時の流れであり、釧中生オールドのノスタルジーと割り切って看過すべきことかもしれない。

青春の雄叫びを応援歌に託すとき、同期生が、同窓生が一つの魂になり、心になる。それは一とき、同時に己れの人生の燃焼なのだから。

(編集委員 T)

事務局だより

同窓会々員の皆様におかれましては、ご健勝にて毎日ご活躍のことと拝察申し上げます。

また常日頃から同窓会に対するご支援、ご協力を賜わり厚くお礼申し上げます。

さて、平成十四年いわゆる西暦二〇〇二年の年に我らが母校

釧中・湖陵高等学校が九十周年を迎えることとなります。平成

十三年度、この中に準備委員会が設立され、秋には協賛会が発

足する運びになっております。そしてその協賛会々長に同窓会

長が選任される予定であります。また協賛会設立後はいろいろな

面で具体的な取り組み作業に入

て行く訳ですが、これとて同窓生お一人お一人の協力を無くし

て実行して行く訳には参りません。どうか皆様の絶大なるご協力を賜わり、母校の九十周年をお祝いできる事業を完成させた

いものと思っております。

切りに東京支部・札幌支部とそれぞれ盛会のうちに非常に楽しい総会並びに懇親会が催されたと、会長よりご報告を頂いております。当番に当られたそれぞれ支部の幹事の皆様に心からご苦勞様でした、そしてありがとうございます。と御礼申し上げます。

ところで当親会の平成十三年度の総会並びに懇親会も八月十二日(第二日曜日)に開催されます。本年度は十九、二十九、三十九期の皆様が当番幹事として、すでに着々と準備を進め、いろいろな計画をたてられ総会当日に向けて万全な態勢造りを行っております。ほんとうにありがたいことでもあります。また、その成果があらわれる総会の当日が楽しみであります。是非総会当日には一人でも多くの同窓生が参加しての楽しいひとときをお過ごしただけですようご祈念申し上げます、事務局からの便りとさせていただきます。

(関口記)

編集後記

―再刊くまざさの歩み

全号に携って思う―

同窓会情報紙「くまざさ」も再刊以来40号になり、よくぞ続けられたものとその携わった者として感慨一入である。思えばS34・7・23に湖陵同窓会報創刊が事務局扱いで中川久平氏の発刊挨拶にはじまる。本校はT元・8・31斤立釧路中学校舎建設の許可があり、木造校舎として完成、三千五百名の釧中卒業生を輩出。S28・2・22午後6時ころ富士見町71の校舎全焼、不燃校舎の建築に同窓生伊藤郷一・森三樹二両代議士の努力で鉄筋コンクリート校舎がS28・9・15地鎮祭でS29・8・22竣工。湖陵高卒二万七千名でH14年開校90周年記念を迎える時期となる。

同窓生の母校愛と結束を絆にしてS55・4・1組村眞平同窓会長の発案でとりあえず湖陵会を銘うつグループの三ッ輪・市役所・教職員の中から田村佳男会長とする教職員会が編集を担当、八幡弥平・上岡信明・徳田

広の当時の役員が選任され、米内印刷(株)で刊行。以来40号まで総合印刷(株)・藤田印刷(株)と数号毎に変わり、田畑印刷から現在の(有)斉野印刷まで同窓会から時々、の会長、関口政司幹事長、遠藤隆吉副会長に参入いただきながら継続されてきた。長内宏会長時代に編集委員会として組織化され、編集委員に上岡信明・奥田達也・関口政司・石川和男・田卷恒利・佐藤文昭氏等により今日に至る。誠に目出度い限りである。

暦の上では夏になり、同窓会の時が到来。会員皆様からの同窓会情報・近況のおたよりを募集しています。河畔の末広町二丁目栄屋旅館内委員会事務局にお届けください。心からお待ちしています。

(上岡記)

くまざさ編集委員会

同窓会会長 久本 甫

同窓会幹事長 関口 政司

同窓会会計長 佐藤 文昭

編集委員長 上岡 信明

編集委員長 奥田 達也

編集委員 石川 和男

編集委員 田卷 恒利

△H13・6・1▽

